

診療時の誤飲、誤嚥について

隠岐病院歯科口腔外科 辰巳博人

- ・咽頭喉頭部：

患者は異物感を訴えることが多い。

- ・気管・気管支：

咳，喘鳴，呼吸困難，チアノーゼなどの症状がみられる。
気道異物が小さい場合は症状が認められないこともある。

- ・食道・胃への誤飲：

症状を伴わない場合が多い。自覚症状が全くない場合は胃内異物を疑い，咽頭部・胸部に異物感がある場合は食道異物の可能性。

口腔内へ器具、補綴物を落としたら

体位を起こす

→消化管、肺内への落下を助長する

→行ってはならない

※抜去歯を口腔内へ滑落、上体を起こし吐き出させようとしたため窒息死した判例がある

- ・落ち着いて口腔、咽頭に残っていないか確認する。
- ・側臥位にし、咳を促すとともに、背部殴打法を行い、反射を促す。

参照

歯科日常臨床における局所的偶発症の対策と対応、中嶋正博、歯科医学 71(3/4), 227, 2008-12-25

歯科治療中に発生したクラウン・ブリッジの誤嚥・誤飲、下山和弘、老年歯科医学 Vol.27 (2012)No.3 p. 323-328

抜去歯の口腔内落下窒息死事故について、メディカルオンライン医療裁判研究会